— vol.8 —
2020 年 4 月 29 日発行

グループホームさざなみ京都南

田中（たなか）フィラミシェラ・バウテスタ

さざなみ

「入居者様が寂しくならないように、人生を楽しんでもらえるように、皆さんと一緒に頑張りたいのです」。

そう語るのは、グループホームさざなみ京都南の田中フィラミシェラ・バウテスタだ。入居者様の個性を尊重し、一人ひとりとしっかり向き合う姿勢は、同じ施設の先輩からもお墨付き。有限会社さざなみでは新人ながらも、長年の経験に裏打ちされた仕事ぶりで、絶大なる信頼を得ている田中に話を聞いた。

興味を持ったものには挑戦したい

高校を卒業後、家族と離れて一人暮らしをしていた田中は、デパートのレジ担当として働いていた。また、仕事とは別に、小学校から始めたダンスはプロ顔負けの腕前で、コンテストで優勝するなど、ダンスの世界でも活躍を見せていたという。

早くに祖父母を亡くしたことから、介護の仕事に興味を持ち、２０１０年６月に来日。京都の病院や施設でホームヘルパーとして働き始める。仕事は順調そのものだったが、持ち前のチャレンジ精神で、同時に英語の先生の資格をも取得しておこうと決意し、学校にも通っていた。結局、免許を取った後に英語の先生としては働くことはなかったが、とても良い勉強になったと思っている。

その後、職場の友人を通してさざなみを紹介され、２０１９年６月に入社。

「今まで働いてきた施設のなかで、一番明るい雰囲気だと思いました」。

さらに、さざなみには心強い仲間がいることを知る。英語学校で顔見知りになった鈴木アイリーンが働いていたのだ。おかげで、職場にすぐに馴染めたと感謝している。

心が踊りだす

「入居者様は家族だと思っているので、みなさんとのコミュニケーションを毎日楽しんでいます」。

しばしば入居者様の機嫌が悪く、大きな声を出されて驚く時もあるが、それらは決してたいしたことではない。なぜなら、そうした難しい雰囲気を一気に明るく変えてしまう自慢のダンスがあるからだ。

幼い頃から多くの人たちの前で披露してきた田中のダンスは、人の心を動かす不思議な力を持っている。例えば、皆で集まっている時に部屋に帰りたくなる方がいると、踊って見せる。そして、声をかけて、今度は一緒に軽く踊ってみる。すると入居者様の表情が優しく、そして柔らかくなり、身体を動かして楽しんでくれるようになるのだ。

「言葉だけでなく、ダンスを通したコミュニケーションもあると思います」。

田中が踊りだすと、周りの雰囲気がパッと明るくなり、思い思いのダンスの輪が広がっていく。それは、昔コンテストで踊っていた時とはまた違う喜びに満たされる瞬間だ。

一人ひとりに合わせて

田中の仕事ぶりについて、周りの人達からの評価は高い。特に、入居者様一人ひとりの特徴をよく掴み、その人に合った話題や話し方、そして接し方を使いこなせるという点では、ベテランスタッフも舌を巻く。認知症症状がある方たちに対しても、この人にこの話をすればうまく思い出せるというのが分かっており、入居者様が不安になった時にも落ち着かせる術や話題がすべてインプットできている。介護の仕事をするうえで非常に重要な振る舞いが自然とできるのは素晴らしい才能の一つであり、その自然体なところが、人気者たる所以なのかもしれない。

今後の目標

田中の今後の目標は、「漢字の勉強をもっと頑張ること」だ。ひらがなとカタカナは読めるが、実際の生活にはやはり漢字が読める方が良いと痛感する日々だという。

仕事をしながら勉強するためだけに時間を取るのは難しいため、普段から実践でどんどん学んでいきたい。幸い、さざなみのスタッフの人たちはとても優しく、何でも丁寧に教えてくれるため、非常にありがたい環境で働かせてもらっていると感じている。

これからも田中は、他のスタッフの人たちと力を合わせ、入居者様の心が穏やかでいられるような介護を目指していく。

職場紹介

～ヘルパーステーションわおん～

今回は大阪府東大阪市にあるヘルパーステーションわおんの紹介です。アットホームな環境を支える、食レクなどの取り組みに注目です！

サ責・管理者
森（もり） 栄子（えいこ）さん

職場の雰囲気

入居者様は９名でワンフロアになっています。フロアを囲むように居室があるので、一歩出たらすぐそこに誰かがいるというアットホームさがあります。そのため、入居者様もご家族も入居の際に非常に安心されます。スタッフは社員２名、パート８名の計10名が在籍しています。

独自の取り組み

デイサービスがない日には食堂のテーブルでトランプやおはじき、貼り絵などのレクを行っています。さらに毎月食レクも行っており、お正月や節分など季節ものを頂くほか、屋上でたこ焼きパーティーやバーベキューもします。そして天気の良い日には入居者様が日課として屋上で洗濯をするのですが、取り入れたものを畳む際にはテーブルで取り合いすることもあります（笑）

入居者様とのエピソード

2019年の暮れに入院された男性の入居者様なのですが、足の筋力がなくなってきたためにベッドから車椅子への移動が困難な状態でした。退院後こちらでは、膝を伸ばしてから背中を伸ばして移動してもらえるようにお声がけすることを徹底しました。その結果、上手に車椅子に座っていただけるようになり入院する前よりも状態が良くなりました。些細なことですが、非常に嬉しく思いました。

スタッフとの思い出

毎年近くの公園でお花見をするのですが、お花見のあと施設で食事をするという流れで、今年は食事が手作りでした。
社員のスタッフが一生懸命天ぷらを揚げたり盛り付けを考えたりしてくれ、仕出し屋顔負けと言う程のクオリティで大好評でした。皆残さず食べてくれ、楽しい時間となりました。

今後の目標

スタッフ同士しこりなく正直に言い合える、注意し合える関係を構築していきたいと考えています。
コミュニケーションをスムーズにして、より良い職場づくりを目指していきたいと思います。

注目スタッフ

菊池（きくち） 美貴子（みきこ）さん

3月31日に入ってきたばかりなのですが、介護歴10年目でケアマネの資格も持っていらっしゃるので頼れる方です。
当然入居者様との関わり方も上手で、安心できます。
これから一緒に皆を引っ張っていきたいと思います。

ペット自慢

どんなペットも可愛いけれど、やっぱりうちの子が一番！
今回は皆さんに、可愛くて仕方がない我が家のペットをご紹介いただきました！

ロングコートチワワの
moca（5歳）
グループホームさざなみ鶴見
三宅（みやけ） 綾香（あやか）さん

【mocaの特技】
ちょっとした特技で、「お手」や「おかわり」のあとに二本脚で立ち、前脚を合わせて上下に降り、ちょうだいポーズをします。

柴犬の
サスケ（2歳）
グループホームさざなみ城東
高橋（たかはし） 雄也（ゆうや）さん

【サスケとの思い出】
実家で産まれた犬です。
産まれた時は500gでしたが、
今は大きく成長し、16kgになりました。
サスケは骨ガムが大好きです。

トイプードルの
とと（8歳）
グループホームさざなみ城東
松原（まつばら） 晴美（はるみ）さん

【ととの魅力】
ツンデレ!!
散歩が大好きで、声かけにちぎれそうなほどシッポを振って寄ってくるのに、ハーネスを構えて待つ私の前で、50cmほど距離を取りながらウロウロと往復……。
ちらっとこっちを見たりしながら繰り返すこと5往復。
ととの気が済んだら、ハーネスの前で止まり、「行くなら行ってあげてもいいよ」という顔をして見上げてきます。
それが、毎日のルーティンです。

猫の
まめ
グループホームさざなみ京都南
小川（おがわ） 彩香（あやか）さん

【まめとの思い出】
まめとは、13年前家の近くでヨチヨチ歩きをしているところ、私と目が合ったのが初めての出逢いです。
人懐こく、口の横に豆粒みたいに黒い模様があり「まめ」と名付けました。名前の由来通りまめな子で元気いっぱいに育ってくれました。

そのまめも今はおばあちゃんです。
1年前に乳癌が発覚され手術を3回しましたが、残念な事に余命は後わずかとのこと。でも、病気にも負けず食事もしっかり取り元気にしてくれています。
人間も動物も一緒です。
今後介護が必要になってくるかもしれませんが、1日でも長く側にいてくれるように見守ってあげたいと思います。